

## 自由のともび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 93

2022 September

- 企画展「春野地域名望家の記録—細川義昌と吉良順吉—」記念講演会報告
- 全国水平社創立100周年記念企画展「人の世に熱を求めて ~近代日本と高知~」
- 夏休み子ども歴史教室レポート
- 資料紹介「吉良禎吉宛 濱口雄幸書簡」



寄贈を受けた新聞の葬式像

## 新聞の葬式像

## ■ リレーエッセイ

## 言論弾圧に抗した「新聞の葬式」

「高知新聞ハ一昨十四日午後九時絶命候二付本日午後一時弔式執行仕候間愛顧ノ諸君ハ来会アランコトヲ乞」。一八八二(明治一五)年七月一六日、政府から発行禁止処分を受けた民権派の高知新聞は、身代わり紙として発刊した高知自由新聞に死亡広告を載せ、全国でも例のない「新聞の葬式」の実施を告知した。

新聞社前を出発した葬列は、頭に大きな筆を付けた喪主の主筆を先頭に、麻のかみしも姿の株主・記者、新聞紙を入れた柩をかついだ新聞配達員が続いた。みな忌中笠をかぶり、「寂滅為楽諸行無常高知新聞紙ノ霊」という旗を掲げ、市内を練り歩いた。葬列は見物客を含めると五千人とも一万人ともされ、風刺による政府への抗議は民衆の賛同を呼んだ。

この様子を再現したのが二〇〇四年に現高知新聞社の創刊一〇〇年を記念して製作した「新聞の葬式像」。葬列の参加者をブロンズ風の像で再現した展示物である。南国市の「高知新聞まほろばセンター」内のミュージアムで展示されていたが、閉鎖に伴い民権記念館へ寄贈された。

二〇二二年六月、民主派への弾圧が続く香港で、中国批判の論調の新聞「蘋果日報」(リングロ日報)が廃刊に追い込まれた。最終号を買い求め長蛇の列をなした市民の映像は、「新聞の葬式」に集まった高知の民衆を想起させた。

新聞の死を死亡広告として新聞に掲載し、政府への抗議を読者と共有するため、町へ練り出して葬式を敢行した高知新聞の記者たち。厳しい弾圧を受けながらも抵抗精神を失わない。ユーモアも持って政府を批判する。そんなふうにな新聞発行を続けた彼らの矜持に私たちも学びたい。

楠瀬慶太(高知新聞記者)

企画展

# 春野地域名望家の記録

— 細川義昌と吉良順吉 —

記念講演会



高知近代史研究会第一〇九回研究会報告

## 地域社会における名望家の登場とその影響

徳平 晶 (高知市職員)



### 一 はじめに

名望家が近代日本の地域社会において果たした役割は小さくない。なかには、細川義昌(以下「細川」)や吉良順吉(以下「吉良」)の両名のように、地域の枠を越えて影響を与えた者もいる。もちろん、このような活動事例は高知県内各地で見られるが、名望家による活動という視点から言及したものは多くない。

そこで、本講演では名望家に焦点を当て、地域に名望家が生まれた背景や、名望家の活動による影響について考察する。

### 二 名望家とは？

名望家の「名望」は名声と人望を意味する語句であり、明治時代以前から使われている。一方で、「名望家」という語句が一般的に使われるようになった時期は定かではないが、一八九五(明治二八)年に『帝國名望家大全』という書籍が発行されていることは、名望家という語句が当時通用したことの傍証となる。

なお、本講演では地域との関わりの中から名望家像を描きたい。そこで名望家の定義を①経済力と名声・人望を持つ者(持つとみなされる者も含む)、②おもに明治時代に活動した者、③地域に身を置き、地域のために働いた経験がある者、とする。

### 三 なぜ名望家が生まれたのか？

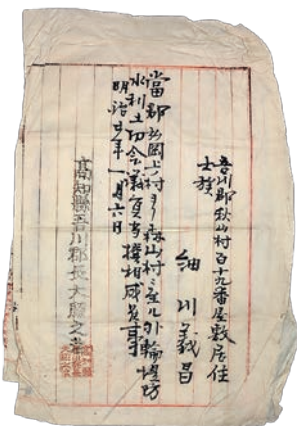
近世の地主制の進展は、有力農民層⇨豪農という新たな階層を生み出した。また、近世以来の村役人である庄屋も、地域社会を政治的・経済的にリードした。これらが名望家の登場へとつながる。ただし、名望家と

して認められるには、何らかのアクションを地域内で起こし、人びとからの名望を集めることで、地域のイニシアチブをとる必要がある。

春野で豪農が生まれたきっかけは、一七世紀の野中兼山による政策である。特に後世の名望家の登場という視点で考えると、在郷町である新川町(新川)の創設が大きかった。仁淀川流域と高知城下とをつなぐ新川町は、両者からの物資が集積し、付近の農村との売買も許可された。この商品経済に対応できた者は大きな利益を生み、結果、豪農という新たな階層が生まれたのである。

また、後の名望家登場に影響を与えたものとして、郷士の取立てがある。豪農層が郷士となった理由について『春野町史』では、士分という立場を利用して積極的な地域運営に乗り出したものと解釈している。この郷士が名望家となるのであり、細川はその典型である。

一方、吉良のルーツは庄屋であるが、春野では用水の配分等で各村と調整する機会が多く、この際に行政能力を示していたとみられる。また、春野の庄屋層は農業経営に対して能動的であったことから、近世を通じて名望を獲得していったものとみられる。



堤防水利土功会議員当選通知書 (当館寄託/細川家資料)

#### 四 名望家と自由民権運動

立志社は、士族だけでなく一般層をも運動へ取り込もうとした。そのため、士族と民衆の両者を結び付ける存在として名望家を必要とした。実際、名望家たちはその役割を果たし、高知の運動は大きな盛り上がりを見せた。一方で、名望家らは地租軽減など自らの主張も忘れなかった。そして何より、彼らに求められたのは運動資金の援助であった。

当然、運動に参加しなかった名望家もいる。その理由は想像に難くない。名望家となった地主層は、近世以来の土地の保有が認められたため経済的に安定していた。彼らは社会の変化を必要としなかったのである。また、運動の参加にはコストがかかる。こうした状況でありながら、細川・吉良のように運動へ身を投じた名望家がいたことは興味深い。『春野町史』は、身分制の解体により士族にとつてかわつたという自負と高額な地租への悩みが、彼らの運動参加を促したと解釈している。

春野と自由民権運動の関わりは早い。立志社の二等発起人として春野出身の安並正原と千頭正澄が名を連ねており、明治一〇年代には春野各地で演説会が開催された。春野において特徴的なのは、神祭など年中行事の場に民権家が繰り出し、地域の人びとと地租の軽減などについて話し合っていたことである。

なお、春野で運動が広がった理由として、民権家の活動のほか、当時の春野における名望家である地主と小作人との良好な関係性も指摘したい。

#### 五 名望家の活動事例―春野を中心として―

国家は名望家が地方行政に携わることを期待した。また名望家自身も自治体の首長や議員として活動していった。弘岡上ノ村出身の小田玉城は、早くから民権家として活動し、後に地方自治に携わるようになった。地元の弘岡上ノ村、さらには西分村の村長も務めた。

地域振興には経済や産業の活性化が欠かせない。企画展では吉良の子である吉良禎吉の活動が紹介される。高知県内では各種経済団体が結成され、その代表には名望家たちが据えられた。島田紘は高知物産会社頭取などの役職を歴任し、細川は高知県水産組合頭取を引き継いだ。吉良は土佐鉄道協会の五名の委員に選ばれている。

地域の教育に貢献した者もいる。幕末期に政治活動に取り組んだ森山村の武政大道は、後に家業である地元の塾で子弟を教育する道を選んだ。また、細川の日記によると、弘岡高等小学校の校舍建設に際し名望家たちから寄付を募っていたことがわかる。

地域文化への貢献は、すでに近世から行われている。西分村庄屋の辻儀之助は、姉の掬水（岩尾）のため当代きつての文化人である楠瀬大枝を招いている。明治時代以降は史料に恵まれず不明だが、時代が下れば弘岡下ノ村の若尾瀾水の登場が挙げられる。なお、先述した小田は一九一五（大正四）年に『西分村史』を編さんし、県内自治体史編さん事業のさきがけと評価される。

また、名望家たちは、地域の利益が脅かされる事態が発生すると、できる限り有利に解決することを求められた。その特徴的な事例が、東諸木村の新階武雄が

中心となって高知県令を相手に裁判を起こした、井組出訴事件である。このほか、細川も各種の紛争を調停していたことが日記で確認できる。

表立った活動ではないが、西分村の地主で資産家として知られた植田重勝は、貧しい家に金銭や食料を恵与したり、近所の公道を自費で修繕したりしていた。また、日清・日露戦争の際は兵士家族の慰問も行っていた。当時の福祉政策は十分でなく、その不備を植田のような名望家の慈善活動が自主的に補っていたということになる。一方、植田の就いた公職は「地主総代」のみであったといい、他の名望家とは一線を画している。

#### 六 おわりに

名望家は、このように多彩な顔を持ち、しかも人びとの名声と人望を集めた人びとを表現する語句は現代用語にはない。そこに名望家のひとつの特質がある。

最後に、明治時代の日本には名望家とよばれる人びとが数多くいたとみられるが、「歴史に名をのこした名望家」は決して多くない。この違いは何か。個人的には地域に対する熱意と覚悟の有無ではないかと考える。他人よりも多くの負担を背負い、周囲への慈悲的行動も欠かさない。それらは義務ではないし、より「私」にフォーカスした生活を送ってもいい。しかし、彼らはそうしなかったからこそ「歴史に名をのこした名望家」となった。そのことによって、彼らは生きていた時代のみならず、未来にわたって人びとの名望を得ることになったのである。



# 人の世に熱を求めて

## 近代日本と高知

【期間】二〇二二(令和四)年一〇月一日(土)～一二月三日(水・祝)

【会場】自由民権記念館 一階自由ギャラリー

【観覧無料】

今からちよび二〇〇年前の一九

二二(大正一一)年三月三日、京都の岡崎公会堂で全国水平社の創立大会が開かれました。「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という印象的なフレーズで結ばれる創立宣言は、日本で初めての人権宣言とも言われています。

今企画展はこの全国水平社創立一〇〇周年を記念し、全国水平社の動きとともに高知県内の部落解放運動と、運動に携わった人々を御紹介します。  
どなたでも無料で観覧いただけますので、ぜひ一度ご家族やお友達と観に来てください。この企画展を通じて、部落問題だけでなく、身近にある様々な差別についても改めて考えるきっかけにしてみませんかと思えます。

### I 「人民平均の理」と「解放令」

一八七二(明治四年、蔑称の廃止と職業の自由を認めた太政官布告)―世にいう「解放令」が布告されました。これに先立つ一八七〇(明治三三年)に、高知藩では近代的な四民平等政策が行われていました。



「高知藩建白人民平均之議」(当館蔵)

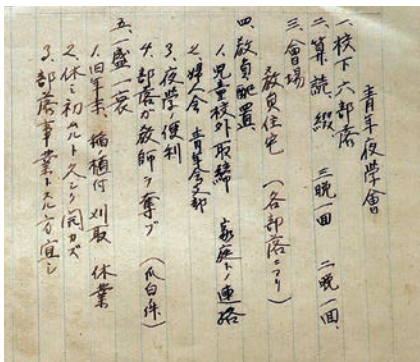
### II 自由民権運動と部落

人びとの自由や権利を求めた自由民権運動。その代表的理論家である植木枝盛と中江兆民はそれぞれ部落差別を批判する論説を発表しています。

部落の人びとの中からも、解放運動の中で自由民権運動に接近・参加する人びとも現れました。

### III 高知県の部落改善運動

松方デフレによる経済不況のなかで、部落内部からの自主的な改善として部落改善運動が発展します。高知県では代表的な部落改善運動団体として野中改善会や原部落改良会などが活動しました。

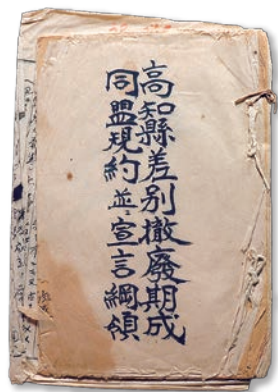


「隋筆録 第三篇」(当館蔵 沖八潮関係資料)

### IV 高知県の融和運動

日清・日露戦争を通じて変質化した部落改善運動には批判が集まりつつありました。その最中、一九一〇年代には一般社会に対して差別意識の解消を求める融和運動が勃興します。

高知県の官製融和団体である高知県公道会や自主的融和団体である高知県自治団など、県内の多様な融和団体の活動について紹介します。



「高知縣差別撤廢期成同盟規約並宣言綱領」(当館蔵 岡崎家資料)

「国民融和日記念ステッカー」  
「国民融和日リーフレット」  
(当館蔵 植村省馬関係資料)



## V 全国水平社の活動



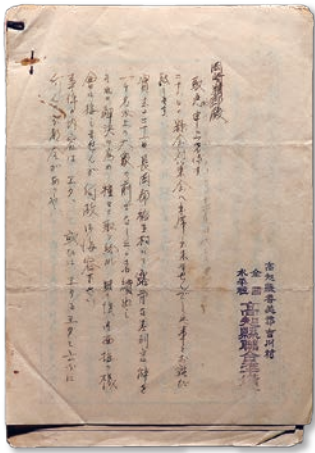
燕会の人々(水平社博物館蔵)

米騒動以降、普選運動や農民運動など、様々な民衆運動が発生します。この頃、青年層を中心に社会主義や人道主義が浸透をみせていました。

平等を求める社会的気運の高まりの中、京都市岡崎公会堂で全国水平社創立大会が開催されました。そして、全国水平社結成を機に瞬く間に各府県で水平社組織が結成されていきます。

## VI 高知県の水平運動

全国水平社が創立されると、日本各地で次々と府県水平社が結成されました。高知県でも一九二二(大正一一)年四月、全国で一番目の地方組織として高知県水平社が結成されました。



『南国』  
(高知市立市民図書館蔵)

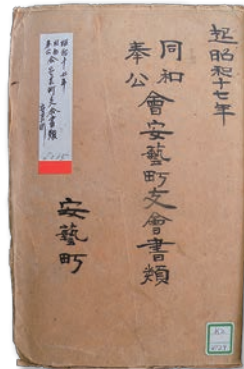
全国水平社高知県連合会  
西本利喜書簡 岡崎精郎宛  
(当館蔵 岡崎家資料)



「弘岡水平社発会式記念写真」(当館蔵 岡崎家資料)

## VII 戦時下の部落

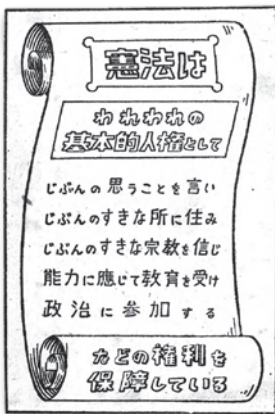
戦時体制下に施行された言論出版集会結社等臨時取締法によって全国水平社は法的に消滅することとなります。また融和運動を主導していた中央融和事業協会は大政翼賛会の結成を受け同和奉公会に改組、高知県公道会も同和奉公会高知県本部へと改組しました。



同和奉公会高知県本部  
部落産業基本調査二関スル件  
(安芸市立歴史民俗資料館蔵)

## VIII 部落解放運動の再建と戦後民主化

敗戦による混乱のなか、全国水平社の指導者たちは、いち早く部落解放運動の再建に取り組みました。戦後、新たに制定された日本国憲法の原理は、日本で暮らす人々の実生活に大きな変革をもたらしました。



文部省発行「あたらしい憲法のはなし」

### 記念講演会

2022(令和4)年10月29日(土)

日時:午後2時~4時

場所:高知市立自由民権記念館 1階民権ホール

講師:吉田文茂氏(高知近代史研究会 副会長)

演題:「高知県水平社の運動とは何であったのか」

参加無料

要申込

申込は

電話(088-832-7277)

または右記QRコードより

【定員】60名

※空きがあれば当日受付可能



# 夏休み子ども歴史教室レポート

7月26日(火)、高知市教育研究会社会科部会との共催により、自由民権記念館で「夏休み子ども歴史教室」を開催しました。この教室は今年で25回目、すっかり夏休みの恒例行事となっています。

この催しは、自由民権運動や郷土の歴史を、クイズなどで楽しく学びながら知識を深めてもらおうと始めたものです。当日は、高知市内の小学3年生から中学1年生までの54名が参加し、大いににぎわいました。

運営に御協力いただきました高知市教育研究会社会科部会の先生方、劇団「笛の会」の皆さん、ありがとうございました。



### ◀受付の様子

朝から元気いっぱいの子もたち。検温や消毒もスムーズに済ませてくれました。

### ▶開会式

社会科部会の先生の司会のもと、開会式スタート。館長挨拶のあとは、映像「自由民権って何？」を鑑賞しました。



### ▶「自由民権運動大演説会」

劇団「笛の会」の皆さんによる劇を鑑賞しました。女性の弁士さんが女性の投票権について語ったり、劇中劇で板垣退助が襲われた事件の再現シーンがあったり…迫真の演技に、子どもたちの眼差しも真剣そのものでした。鑑賞後、劇の内容に関するクイズに挑戦すると、なんと全員が正解でした!



## クイズラリー

3つのチェックポイントを班ごとに回りながら、クイズに挑戦しました。

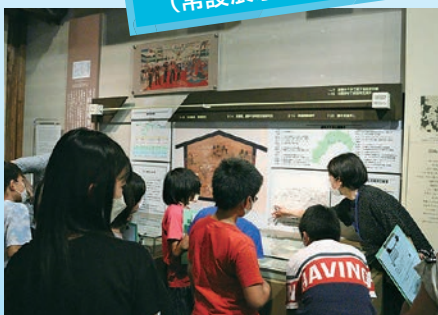


### 第3チェックポイント (自由ギャラリー)

明治時代に作られたすごろくに挑戦! すごろくのルールや、くすし字や旧字体も一瞬のうちに覚え、多くの子どもが「上がり」に到達しました。

ノルマントン号事件をきっかけに起こった三大事件建白運動や、高知で作られた憲法案について説明を受けながら、クイズに挑戦しました。子どもたちは、植木枝盛の書斎にも興味津々。

### 第2チェックポイント (常設展示室2)



### 第1チェックポイント (常設展示室1)

立志社の模型や、立志社が作った学校「立志学舎」、板垣退助遭難時の刀のレプリカなどを鑑賞しながら、自由民権運動に関するクイズに回答します。

◆ 吉良禎吉宛  
はまぐち おさち

濱口雄幸書簡

本書簡は、平成二〇年、吉良家の御子孫から当館へ寄託されました。当時衆議院議員であった濱口雄幸が、吾川郡弘岡下ノ村（現高知市春野町弘岡下）長の吉良禎吉に宛てたものです。

禎吉は、春野地域の民権家吉良順吉の長男で、名誉職を務めながら吾川郡の養蚕業発展に貢献するなど、順吉と同じく地域の名望家といえる人物です。

一、書簡の内容

書簡の中で、雄幸は、「弘岡高等実科女学校の件」を文部省に相談したところ概ね好反応であったことと、禎吉らが文部省に提出した「申請書」に不備があることの二点を述べています。日付は「十二月九日」、年号の記載はありません。

雄幸のいう「弘岡高等実科女学校」とは、明治四一年に吾川郡八村の組合によって設立された弘岡実科高等学校（現春野高等学校）のことです。

創立時は弘岡実業女学校という名称でしたが、大正一二年四月に改称されました。

二、禎吉日記の検討

令和二年に寄託いただいた大正期の禎吉日記を参照すると、大正一〇年一月二三日に「濱口雄幸氏及小川美映氏ヨリ書信アリタリ」との記述が見つかり、本書簡は大正一〇年の二月、つまり弘岡実科高等学校へ改称となる前年の冬に送られた可能性が高いことが分かりました。

三、禎吉日記に見る「女学校」記録

同年の禎吉の日記には、「女学校」に関する内容が多くみられます。早いものでは二月二日、「女学校昇校問題ニテ関係村長会開催 昇校実施方針ニテ各組合村会ノ意見ヲ呈スルコト、ス」。六月には県庁との会議が始まるなど関係各所との調整に奔走し、一〇月末、ついに県庁から設置許可が下った、と記されます。

しかし、高等女学校の設置そのものについては文部大臣に申請し、許可を得なければなりません。雄幸の書簡にある「申請書」とは、禎吉らが高等女学校設置のため文部省へ提出した書類のことと思われる。

四、女学校を「昇格」させた理由

禎吉は日記の中で、実科高等女学校への改称を「昇格」「昇校」と表現しており、地元の人々の認識も同様であったと考えられます。ではなぜ、高等女学校へ「昇格」させる必要があったのでしょうか。

本書簡が送られた大正一〇年当時、高知県の高等女学校（実科を含む）は高知市内と中村、安芸にしかなく、地元への高等女学校設置を求める声も必然的に高まっていたと考えられます。

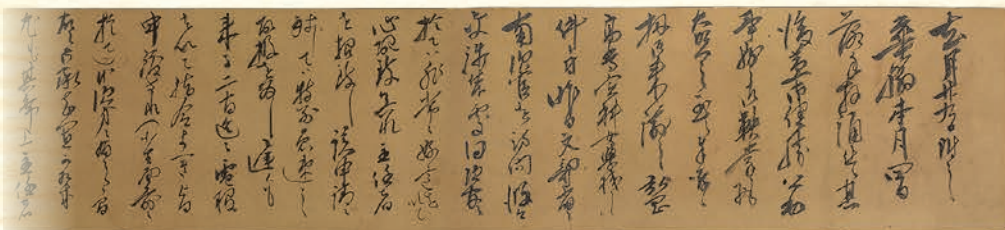
また、大正一〇年は、県内で中等教育学校への入学志願者が激増した年でもありました。特に県立高等女学校に関しては著しく、同年四月の土陽新聞によると、志願者七百五名のうち八割近くが不合格となったといえます。

同紙はさらに、同年四月九日より「本県女子教育機関問題（全二三回）を連載しています。初日の記事では急増する女子入学志願者の「受け皿」を増やすこと、つまり新しい高等女学校を設置することは、吾川郡だけでなく県全体の重要課題だ、と述べられます。

実際、大正一二年四月には、弘岡実業女学校が実科高等女学校へ「昇格」されたほか、県立佐川高等女学校が新設され、さらに中村・安芸にある郡立高等女学校が県立に移管されるなど、女

子中等教育機関の大掛かりな整備がなされました。

※本書簡は、企画展「春野地域名望家の記録」前期（9月4日）で展示しました。



書簡（一部）

## 出版物のお知らせ

### 『板垣退助伝記資料集』第1巻～第12巻(好評販売中)

第13巻～第18巻 2022(令和4)年10月刊行予定。

6巻1セット、各18,000円(税込)

郷土の偉人であり、自由民権運動の指導者である板垣退助に関する重要な史料をほぼ網羅した資料集です。現在は第1巻(幕末篇)～第12巻(明治30年)を販売中です。また、秋には第13巻(明治31年)～第18巻(大正篇)の刊行を予定しています。

購入・お問合せ: 民権・文化財課(自由民権記念館内)

TEL/088-832-7277 FAX/088-831-3378

## 博物館学芸員実習

当館では学芸員資格取得に必要な博物館実習を必要とする学生の受け入れを行っています。今年度は、1名の学芸員実習生の申込みがあり、資料整理や企画展案の作成など実践的なカリキュラムに取り組みました。



## 行事予定 (秋・冬)

予定は変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。

◆は当館内自由民権記念館友の会事務局にお問い合わせください。

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、延期・中止とさせていただきます。

開催中～2023(令和5)年5月7日(日)

### ■企画展

#### 「春野地域名望家の記録 —細川義昌と吉良順吉—」

会場: 2階特別展示室  
※常設展・企画展共通観覧券が必要  
※担当学芸員による展示解説  
12月18日(日)、3月19日(日)  
各回13時30分～  
解説員による展示解説  
1月13日(金)15時～  
いずれも各回30分程度(申込不要)

10月1日(土)～11月23日(水・祝)

### ■全国水平社創立100周年記念企画展

#### 「人の世に熱を求めて ～近代日本と高知～」

会場: 1階自由ギャラリー **入場無料**

10月15日(土)13:30～16:00

### ◆第22回「県詞の日」記念講演会

#### 「自由民権運動・ 人間解放への闘いの始まり」

講師: 公文豪氏  
(自由民権運動研究家・友の会会員)  
会場: 1階民権ホール

10月29日(土)14:00～16:00

### ■企画展記念講演会 高知近代史研究会第111回研究会

#### 「高知県水平社の運動とは 何であったのか」

講師: 吉田文茂氏(高知近代史研究会副会長)  
会場: 1階民権ホール

11月12日(土)9:00～16:00

### ◆民権史跡めぐり

#### 「バスによる 香長平野の史跡めぐり」

案内人: 公文豪氏  
(自由民権運動研究家・友の会会員)  
参加費: 4,500円程度(参加人数により変動します。定員20名)

12月13日(火)10:00～

### ◆「兆民忌」

集合場所: 高知市筆山登り口(雨天中止)  
筆山にある中江家墓所の清掃と墓参り

12月18日(日)13:30～

### ◆第25回 民権凧まつり

#### 「土佐凧を作ろう」

会場: 1階民権ホール

1月4日(水)14:00～

### ◆第25回 民権凧まつり

#### 「土佐凧を揚げよう」

会場: 鏡川北岸トリム公園(雨天中止)

1月21日(土)～2月26日(日)

### ■第23回社会科自由研究作品展

会場: 1階自由ギャラリー  
市内小中学生の社会科に関する研究作品を展示

1月23日(月)10:00～

### ◆「無天忌」

集合場所: 高知市小高坂市民会館(雨天中止)  
山ノ端町にある植木枝盛の墓所の清掃と墓参り

2月11日(土)14:00～16:00

### ■高知近代史研究会第112回研究会

#### 「イタドリの商品化をめぐる グローバルヒストリー(仮)」

講師: 岩佐光広氏(高知大学人文社会科学部准教授)  
会場: 1階民権ホール

2月18日(土)14:00～

### ■博物館講座

#### 「高知市章について」

講師: 今井章博氏(土佐史談会副会長)  
会場: 1階民権ホール

## ワークショップ

午前の部 10:00～12:00  
午後の部 14:00～16:00

定員: 各回10名  
会場: 1階研修室 **要電話予約**  
参加費: 500円  
※午前・午後とも参加者対象の展示  
クイズラリーあり

10月22日(土)

### 「エコバッグを作ろう!」

11月26日(土)

### 「フェイクグリーンでテラリウムを作ろう!」

12月17日(土)

### 「水引きアクセサリーを作ろう!」

1月15日(日)

### 「つまみ細工を作ろう!」

3月18日(土)

### 「写真立てを作ろう!」